

錦鯉の里

小千谷中心部にある「錦鯉の里」で、鯉の歴史や、小さな稚魚から1メートルの大きな成魚になるまでのライフサイクルについて学びましょう。展示では、真鯉から今日大いに珍重される色鮮やかな錦鯉までの進化について詳しく説明されています。水槽や観賞池、また水路や橋の下を鯉が泳ぐ日本庭園の池で、何百匹もの健康な鯉を見ることができます。伝統的な日本庭園を散策しながら、色鮮やかな鯉を間近で観察し、この「生きた宝石」に餌をあげることもできます。

発見と学び

錦鯉の里の展示室では、伝統的な赤、橙、黒の斑点がある白い鯉から、より最近誕生した黄金色や白金色の品種まで、錦鯉の数ある品種について学ぶことができます。

展示では、鯉の歴史や、真鯉から色鮮やかな錦鯉の登場に至るまでの遺伝子変異について述べられています。多言語のパネルや写真は、鯉の飼育方法を描き、日本文化における鯉の重要性を説明しています。鯉の一生、繁殖、そして鯉愛好家の世界に関する英語のナレーション付き映像を、リクエストにより閲覧できます。

観察し、触れ合う

室内の観賞池には約100～350匹の大きな成魚が泳いでおり、あらゆる角度から鯉を観察することができます。若い稚魚は、池の周りの小さな水槽で泳いでいます。屋外では、季節の植物、小さな滝、また伝統的な橋を備えた日本庭園の池や水路を、鯉が優雅に泳いでいます。庭池では、餌を購入して鯉に餌やりをすることもできます。11月下旬から3月にかけては、寒さから守るため鯉は室内に移されます。この施設では、約20種類の様々な鯉が飼育されています。

錦鯉オーナー制度

錦鯉の甲で飼育されているおよそ300匹の鯉の多くには、オーナー様がいます。錦鯉の里の入口には、オーナー様の氏名が横に書かれた錦鯉の写真が並んでいます。